

株式会社 有沢製作所

2019 環境報告書

ARISAWA ENVIRONMENTAL REPORT

Dreams to Reality



株式会社 有沢製作所

2019 環境報告書

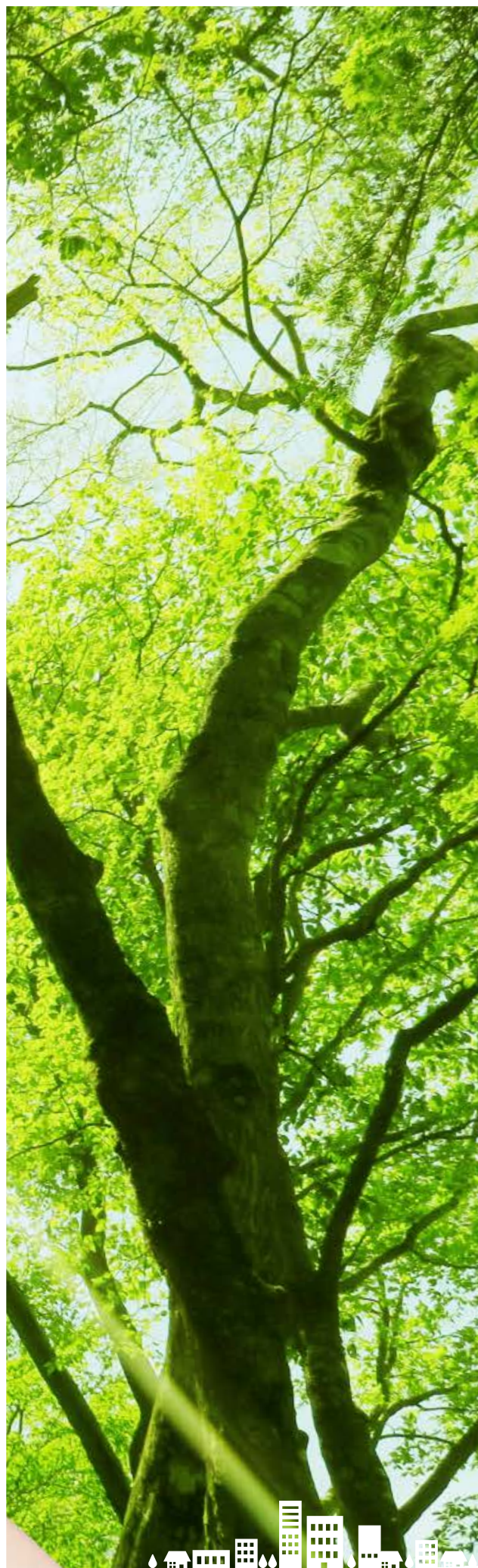
ARISAWA ENVIRONMENTAL REPORT

CONTENTS

当社における環境活動	1
経営方針	2
環境方針	2
推進体制	3
2018 年度環境目標・実績及び評価	3
環境負荷マテリアルバランス	4
2019 年度環境目標	4
環境負荷物質低減の推進	5
廃棄物の管理	7
グリーン購入	7
環境苦情	8
環境活動	8
環境情報の開示	9
会社概要	10

「2019 環境報告書」の対象範囲


- 対象期間 2018 年度 (2018 年 4 月～2019 年 3 月)
- 対象事業所 本社・南本町工場 (含むアリスワファイバークラス株式会社、
敷地内有沢総業株式会社)
中田原工場 (含む敷地内有沢総業株式会社)
中田原西工場 (含む敷地内有沢総業株式会社)



当社における環境活動

社員一人ひとりが常に考え前に進む事により、
より強い健全な会社を目指し、
更なる発展を目指してまいります。

2019年10月
株式会社有沢製作所
CEO



アリサワグループは、「創造・革新・挑戦」を基本とした経営方針のもと、当社独自の「織る、塗る、形づくる」技術を駆使して技術革新と製品開発に取り組み、お客様のニーズにお応えすると共に、企業価値の向上に努めてまいりました。

そうした活動を進める上では、2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（SDGs）の達成を念頭に置き、環境負荷の低減を目指した製品・技術開発、有害物質の管理強化、環境法令の遵守、省エネルギー・省資源推進、環境関連教育の充実、環境ボランティア活動の実施の6つの分野で環境目標を設定し、活動を継続してまいりました。

環境負荷の低減を目指した製品・技術の例としましては、省電力・高速通信に使用される信号伝送ロスの小さい特性を有するフレキシブル基板材料の開発や、航空機の燃費の向上に寄与する軽量・難燃の航空機シート材料の開発などがございます。

本報告書は、2018年度における当社の環境に関する活動をまとめたものとなっており、当社の環境活動の状況をご理解いただければ幸いです。

今後も『昨日より今日、今日より明日』のスローガンのもと、地域社会の皆様と密接にコミュニケーションをとり、環境に配慮した事業活動を継続してまいりますので、アリサワグループへの変わらぬご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



経営方針

CIC 昨日より今日、今日より明日
～一歩ずつ前に進み、よりよい未来を作り上げよう～

経営方針

「創造 Creation」「革新 Innovation」「挑戦 Challenge」を基本とし

- I. 新たな価値を創造し、顧客満足を高める。
- II. 顧客要求を発掘し、独創的な技術で新事業を創出する。
- III. 品質と生産性を向上させ、企業体質を強化する。

私たちの行動指針

1. 他人と自分を比べるのではなく、昨日の自分と今日の自分を比べる。
2. 相手の立場を理解し、もっとも良いと考え抜いた行動を起こす。
3. ゼロ災に向けて、自分の役割と責任を果たす。

CICとは

創造：Ccreation 革新：Innovation 挑戦：Challenge

環境方針

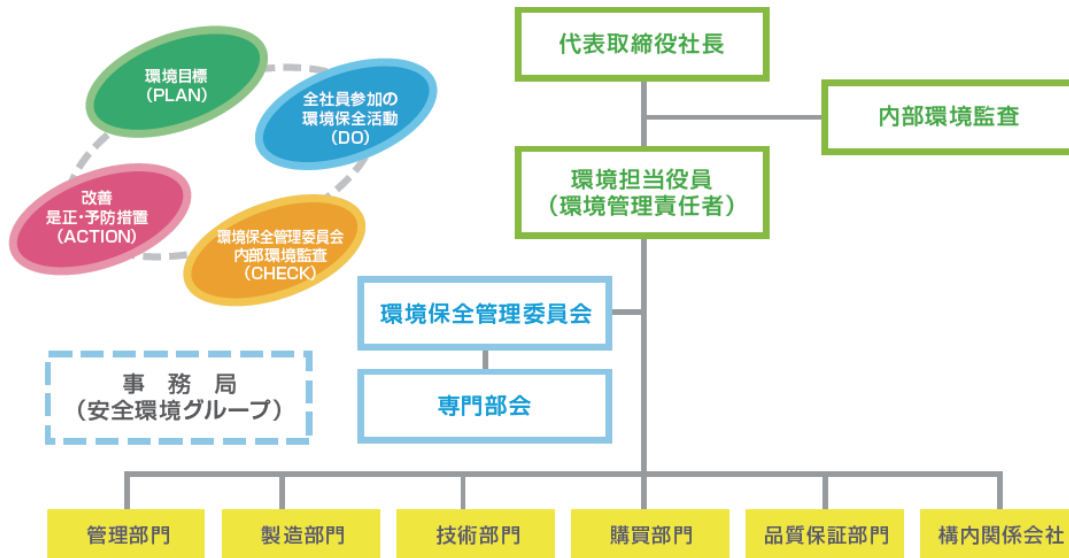
当社は、電子材料、ディスプレイ材料、電気絶縁材料及び産業用構造材料の開発・設計から製造に至るまでの事業活動全般において、環境に与える負荷の低減に努め環境保全を推進するために、次のことを実行致します。

- ① 当社の事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響を把握し、環境汚染の予防に努める。
- ② 環境法規、規制、協定及び当社が同意したその他の要求事項を順守する。
- ③ 環境活動の推進に当たり、「環境目的及び目標」を設定・実行し、定期的に見直す。
- ④ 環境負荷の低減を指向した製品開発、技術開発を行う。
- ⑤ 環境に影響を与える可能性のある有害化学物質の管理強化を行う。
- ⑥ 大気、水質、土壌汚染等の防止管理の強化を行う。
- ⑦ 省資源、省エネルギー、産業廃棄物の削減、リサイクルの推進に取り組む。
- ⑧ 環境教育を通じ全社員の意識向上を図り、自ら責任を持って環境保全活動を遂行できるよう、啓発を行う。
- ⑨ 内部環境監査、マネジメントレビューを定期的実施し、環境管理マネジメントシステムの継続的改善を図る。

この環境方針は、社内外に公表する。

推進体制

当社は市内3拠点に工場が分散し操業しています。環境保全推進体制は、その3拠点が一体となり、また構内関係会社も取り込んだ環境保全管理委員会を中心とした全社体制と、個別テーマを担当する専門部会によりP D C Aのサイクルを回して取り組んでいます。



2018年度環境目標・実績及び評価

No	環境目標	目標値	実績	評価
1	環境負荷の低減を指向した製品開発・技術開発を行う。	期間中に2件の開発	2件開発	達成
2	既存購入仕様書の環境有害物質の調査を行う。	データ、保証書の入手(随時)	231件	達成
3	各グループにおける管理基準を遵守し、新たな環境汚染を発生させない。	環境法令違反ゼロ件	0件	達成
4	①生産効率のアップ、設備改良を図り、省エネに取り組む。	①-1 南本町工場の省エネルギー 目標値: エネルギー量 kL 過去実績比 1%削減 又は エネルギー量 kL/加工高 前年度比 1%削減	エネルギー量 KL 過去実績比 1.2%削減 エネルギー量 KL/加工高 前年度比 0.7%削減	達成
		①-2 中田原・中田原西工場の省エネルギー エネルギー量 kL 過去実績比 1%削減 又は エネルギー量 kL/加工高 前年度比 1%削減	エネルギー量 KL 過去実績比 0.8%削減 エネルギー量 KL/加工高 前年度比 0.4%削減	未達成
	②各部門の業務遂行段階において、産業廃棄物削減に取り組む	2017年度産業廃棄物排出量/ 生産高実績の1%削減	1.1%削減	達成
5	①一般教育訓練の実施 ②特定業務従事者教育の実施 ③雇入れ又は異動者教育訓練の実施	①各部門年1回実施 ②該当部門年1回実施 ③雇入れ、異動時	①実施済 ②実施済 ③随時実施	達成
6	①環境ボランティア活動の実施 ②環境報告書の発行	①年1回以上 ②10月発行	①1回実施 ②10月発行	達成

環境負荷マテリアルバランス

IN PUT

	2018年度	2017年度
◇エネルギー投入量		
燃料 (原油換算)	9,359KL	9,095KL
○都市ガス	8,439 千m ³ N	8,170 千m ³ N
○A重油	0	0
○LPG	6.0ton	8.0ton
○ガソリン	30.0KL	28.4KL
○軽油	27.8KL	37.3KL
○灯油	1.5KL	2.0KL
電力 (原油換算)	9,937KL	10,040KL
○電力	38,667 千kwh	39,067 千kwh
◇購入品	8,689ton	9,236ton
原材料	7,669ton	8,080ton
うち有機溶剤	685ton	700ton
副資材	1,020ton	1,156ton
◇水資源投入量		
総投入量	446.9 千m ³	455.4 千m ³
○上水	208.6 千m ³	211.6 千m ³
○地下水	238.3 千m ³	243.8 千m ³

OUT PUT

	2018年度	2017年度
◇CO ₂ 排出量	36,441ton	36,080ton
●燃料分	18,306ton	17,758ton
●電力分	18,135ton	18,322ton
◆有機溶剤大気排出量		
●PRTR対象物質	163ton	122ton
◇産業排出物	1,892ton	1,923ton
●リサイクル(再生使用)	1,814ton	1,840ton
●埋立処分	78ton	83ton
(総排出量/生産高実績)	7.91t/億円	8.00t/億円

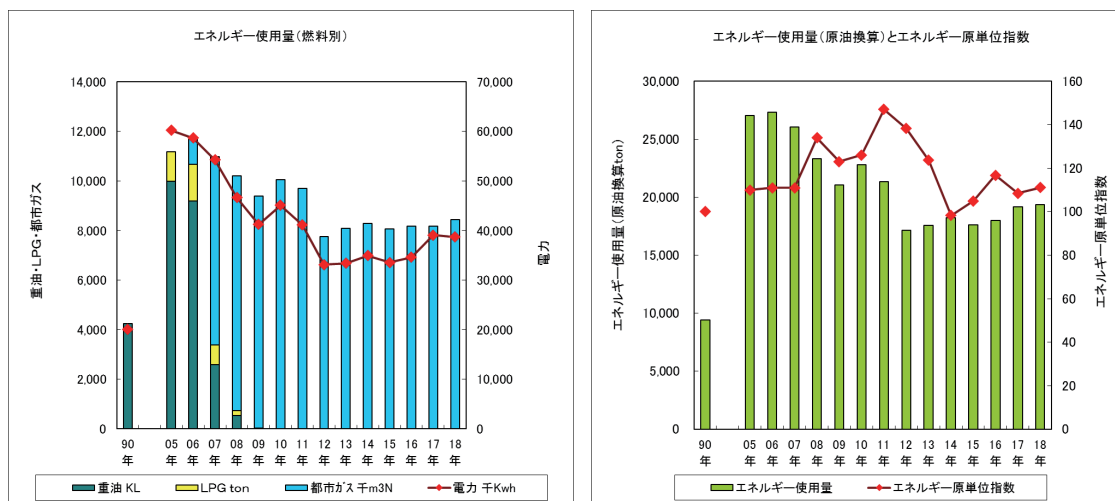
2019年度 環境目標

No	環境方針	2019年度環境目標	目標値
1	環境負荷の低減を指向した製品開発、技術開発を行う。	環境負荷の低減を指向した製品開発、技術開発を行う。	期間中に2件以上
2	環境に影響を与える可能性のある有害化学物質の管理強化を行う。	既存購入仕様書の環境有害物質の調査を行う。	データ、保証書の入手(随時)
3	大気、水質、土壌汚染等の防止管理の強化を行う。	各グループにおける管理基準を遵守し、新たな汚染を発生させない。	環境法令違反ゼロ件
4	省資源、省エネルギー、産業廃棄物の削減、リサイクルの推進に取り組む。	① 省エネルギー(電気・都市ガスの削減)	①-1 南本町工場の省エネルギーエネルギー量 kL 又はエネルギー量 kL/加工高 過去実績比 1%削減 ①-2 中田原・中田原西工場の省エネルギーエネルギー量 kL 又はエネルギー量 kL/加工高 過去実績比 1%削減
		② 産業廃棄物総排出量の削減	2018年度産業廃棄物排出量/生産高実績比の1%削減又は産業廃棄物排出量 t 過去平均比の1%削減
5	環境教育を通じ全社員の意識向上を図り、自ら責任を持って環境保全活動を遂行できるよう、啓発を行う。	① 一般教育訓練の実施 ② 特定業務従事者教育の実施 ③ 雇入れ又は異動者教育訓練の実施	①年1回実施 ②年1回実施 ③雇入れ、異動時
6	その他環境活動	① 環境ボランティア活動の実施 ② 環境報告書の発行	①年1回以上 ②10月発行

環境負荷物質低減の推進

I. エネルギー使用量

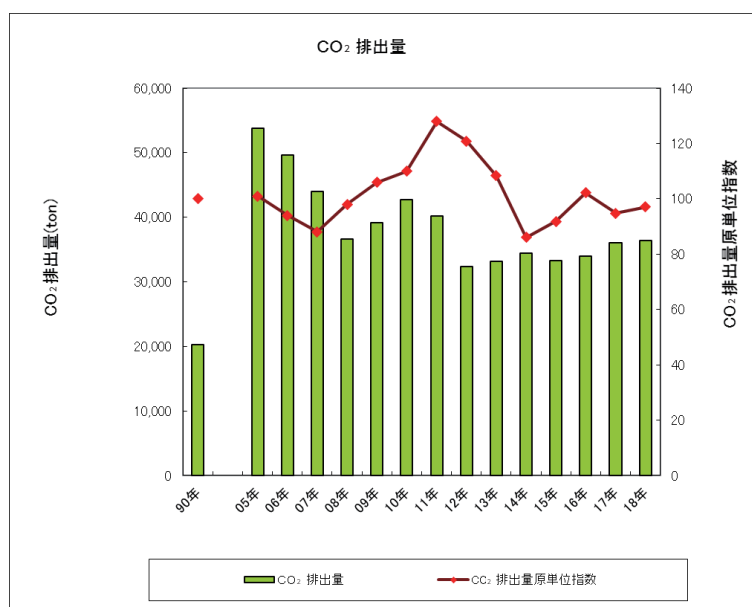
当社は主なエネルギーとして、CO₂排出量の少ない電力と都市ガスを使用しております。
エネルギー原単位指数は111となり、前年度より3ポイント増加となりました。



燃料別使用量の単位: 左軸 重油 (KL)、LPG (ton)、都市ガス (千 m³N)
右軸 電力 (千 kwh)

II. CO₂ 排出量の削減

CO₂排出量は36,441 tonとなり、前年度比361 ton増加となりました。また、CO₂排出量原単位指数は前年度比2ポイント増加し、97となりました。



原単位指数: 基準年の原単位を基準として、経年の原単位の変動を指数化したもの。

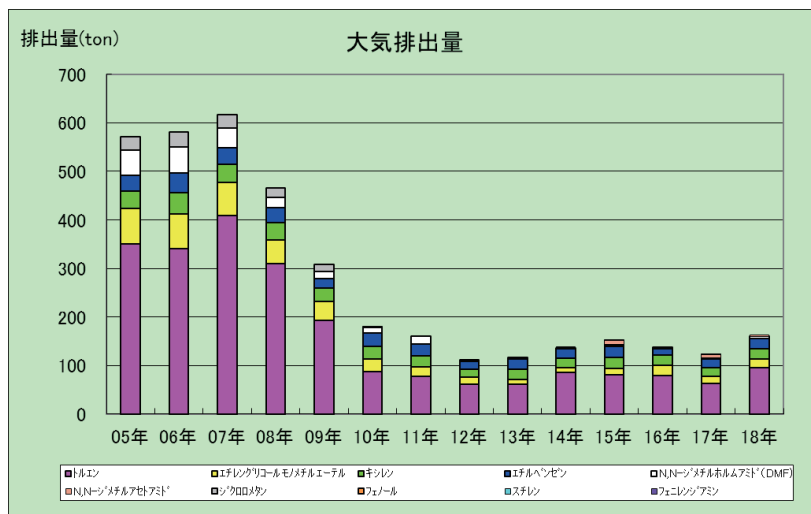
CO₂ 排出係数: 地球温暖化対策の推進に関する法律施行令等による。但し、電力は東北電力公表数字(クレジット量反映前の数値)とする。

Ⅲ. PRTR 法対象化学物質

PRTR 第一種指定化学物質の大気排出量（届出対象分）は、前年度比べ約 3.4% 増の 163 ton でした。

（単位：ton）

政令番号	物質名	取扱量	移動量	大気排出量
31	アンチモン及びその化合物	1.6	0.2	0.0
53	エチルベンゼン	35.3	5.8	21.5
58	エチレングリコールモノメチルエーテル	44.6	4.5	18.3
80	キシレン	35.1	5.8	21.4
213	N,N-ジメチルアセトアミド	16.8	1.1	3.5
232	N,N-ジメチルホルムアミド（DMF）	13.2	0.8	3.6
240	スチレン	8.2	1.1	0.0
300	トルエン	226.5	23.4	94.8
352	フタル酸ジアリル	1.8	0.3	0.0
349	フェノール	1.8	0.2	0.0
405	ホウ素化合物	1.6	0.2	0.0



PRTR（Pollutant Release and Transfer Register：化学物質排出移動量届出制度）とは、有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組みです。

Ⅳ. 水質汚濁物質の対策

公共用水域に排出される特定施設に関わる水質汚濁物質は、すべて適正な処理を施した後、排水しております。今後も定められた監視と測定を行い、排水基準を順守していきます。

Ⅴ. 土壌汚染の対策

地下水基準値を超過したエリアでは、揚水曝気浄化処理を行い、還元分解され汚染濃度範囲が縮小するなどの浄化効果を確認しています。引き続き、行政の指導のもと、敷地外部への影響についてもモニタリングするなど、適正に対策を推進していきます。

また、今後実施する事業所の統廃合や再構築等での土地の形質変更時には、改正土壌汚染対策法に基づき、届出・調査・報告を適正に実施するとともに、調査結果の情報開示と汚染が確認された場合の対策に努めます。

廃棄物の管理

1) 産業廃棄物の発生量

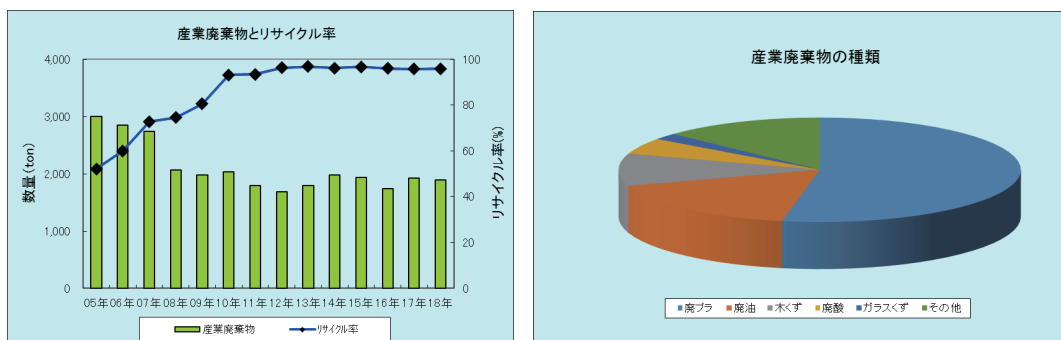
産業廃棄物の発生量は、1,892 tonでした。また、産業廃棄物の内訳は、廃プラスチック類53%、廃油17%、木くず10%、廃酸5%、ガラスくず2%、その他13%でした。

2) 産業廃棄物のリサイクル化

積極的なリサイクル化（サーマルリサイクル又はマテリアルリサイクル）を継続して進めており、2018年度のリサイクル率は95.9%となりました。

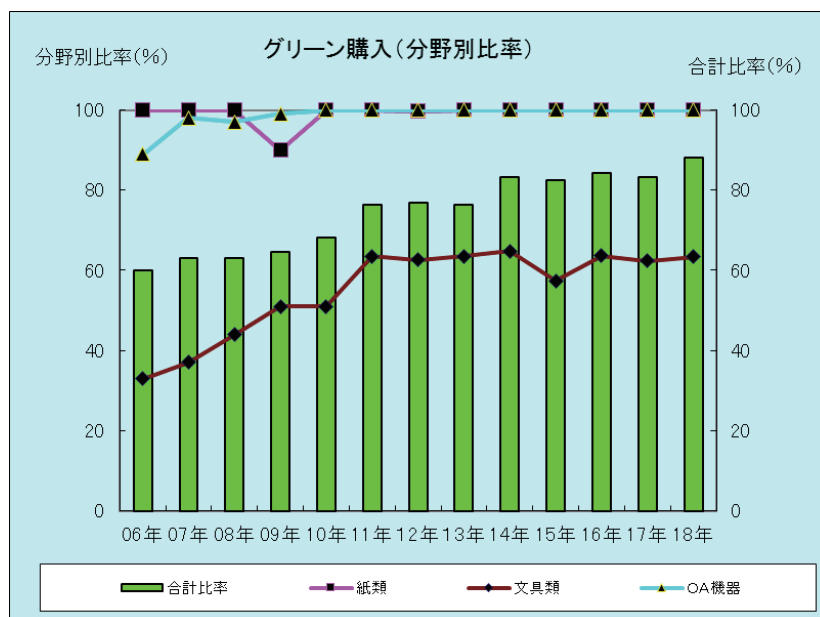
3) 産業廃棄物の処理委託

当社は、処分業者に産業廃棄物の処理を委託しています。「廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法)」等の適正な法令に従い、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を適切に交付し、最終処分先に至るまで確認をおこなっています。また、処分業者へは現地確認（書類審査を含む）を実施し、当社の排出物が適正に処分されていることを確認しています。



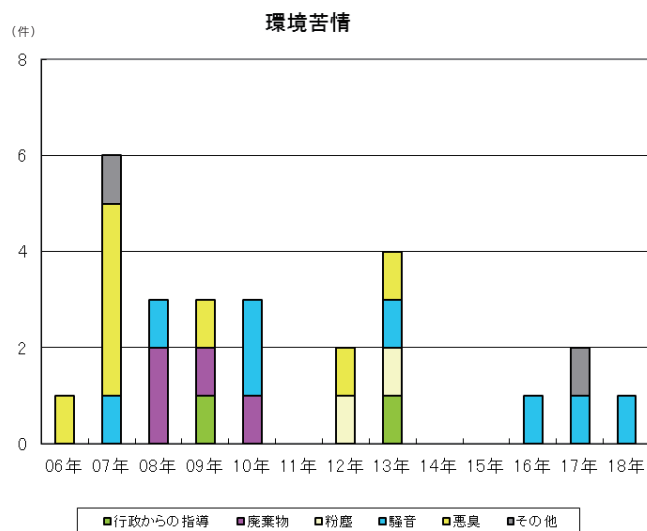
グリーン購入

グリーン購入比率は、金額ベースで88.0%になりました。



環境苦情

2018年度は近隣住民からの騒音苦情が1件ありました。蒸気トラップの経年劣化により動作不良となった事が原因であり、該当箇所の修繕工事を実施し通報された住民よりご了解を頂きました。今後も環境情報に対し、関係者の皆様とコミュニケーションを活発にして機敏に対応してまいります。



環境活動

2018年6月20日

第26回青田川クリーンアップ活動に参加

青田川の一斉清掃「クリーンアップ活動」に参加しました。川沿いの町内会や事業所、県、市の職員、地元小学校児童等総勢約500人が参加し、清掃活動を実施しました。



廃棄物を利用した地元小学校の図工授業協力

上越教育大学大学院生のグループより小学校4年生の授業で、地元企業から排出される廃棄物を素材とした図画工作の授業を計画しているとの事から廃棄物の提供依頼があり、協力させて頂きました。



※実施を予定していた第7回アリスワ eco ワークラリーは雨天により中止となりました。



[南本町工場]

◆水質（排水口 No.10…青田川排水口）

項目	単位	排出基準	測定結果
pH	-	5.8～8.6	7.4
BOD	mg/L	60	14.0
SS	mg/L	60	4.2

◆大気

	項目	単位	排出基準	測定結果
ポイラー	ばいじん	g/ m ³ N	0.10 未満	*
	NOx	ppm	150 未満	26～60

[中田原西工場]

◆下水道排水

	項目	単位	排出基準	測定結果
A 路線	pH	-	5.7 超～8.7 未満	7.7
	BOD	mg/L	300 未満	23.4
	SS	mg/L	300 未満	6.3
B 路線	pH	-	5.7 超～8.7 未満	**
	BOD	mg/L	300 未満	**
	SS	mg/L	300 未満	**
C 路線	pH	-	5.7 超～8.7 未満	**
	BOD	mg/L	300 未満	**
	SS	mg/L	300 未満	**
D 路線	pH	-	5.7 超～8.7 未満	**
	BOD	mg/L	300 未満	**
	SS	mg/L	300 未満	**

[中田原工場]

◆水質（排水口 No.2）

項目	単位	排出基準	測定結果
pH	-	5.8～8.6	8.1
BOD	mg/L	25	1.7
SS	mg/L	50	1.0

◆水質（排水口 No.7）

項目	単位	排出基準	測定結果
pH	-	5.8～8.6	7.2
BOD	mg/L	25	3.3
SS	mg/L	50	2.1

◆大気

	項目	単位	排出基準	測定結果
ポイラー	ばいじん	g/ m ³ N	0.10 未満	*
	NOx	ppm	150 未満	33～66

◆下水道排水

	項目	単位	排出基準	測定結果
A 路線	pH	-	5.7 超～8.7 未満	8.2
	BOD	mg/L	300 未満	8.5
	SS	mg/L	300 未満	6.8
B 路線	pH	-	5.7 超～8.7 未満	**
	BOD	mg/L	300 未満	**
	SS	mg/L	300 未満	**
C 路線	pH	-	5.7 超～8.7 未満	**
	BOD	mg/L	300 未満	**
	SS	mg/L	300 未満	**
D 路線	pH	-	5.7 超～8.7 未満	7.3
	BOD	mg/L	300 未満	65.8
	SS	mg/L	300 未満	8.9

* 測定年度対象外

** 流量不足のため測定不可

検査機関：一般財団法人 上越環境科学センター

会社概要 (2019年3月31日現在)

社名	株式会社有沢製作所
代表者	代表取締役社長 有沢 悠太
創業	1909年(明治42年)4月8日
設立	1949年(昭和24年)7月1日
資本金	7,541百万円
売上高	単体: 29,269百万円(連結: 44,728百万円)
経常利益	単体: 2,602百万円(連結: 4,297百万円)
本社	〒943-8610 新潟県上越市南本町一丁目5番5号
事業内容	電子材料、産業用構造材料、電気絶縁材料、ディスプレイ材料の製造・販売
工場	南本町工場 新潟県上越市南本町一丁目5番5号 中田原工場 新潟県上越市大字中田原1番地 中田原西工場 新潟県上越市大字中田原55番地

関連会社

社名	アリスワファイバークラス株式会社
本社	〒943-8610 新潟県上越市南本町一丁目5番5号
事業内容	ガラスクロス、ガラステープの製造
社名	有沢総業株式会社
本社	〒943-8610 新潟県上越市南本町一丁目5番5号
事業内容	倉庫管理・物流業務全般

ISO14001認証

組織の名称	株式会社有沢製作所
所在地	〒943-8610 新潟県上越市南本町一丁目5番5号
対象事業所	本社・南本町工場(含むアリスワファイバークラス株式会社、 敷地内有沢総業株式会社) 中田原工場 中田原西工場
適用規格	ISO14001:2015
登録日	2007年6月18日